

第 17 回日本野生動物医学会大会

プログラム概要

9 月 29 日 (木)

午後 1 時から午後 3 時まで：各種委員会

広報委員会 (未定)

学術委員会 (未定)

教育・野生動物保護委員会 (未定)

学会誌編集委員会 (第 1 講義棟 16 号教室)

ニュースレター編集委員会 (未定)

国際交流委員会 (未定)

感染症対策委員会 (未定)

専門医認定制度運営委員会 (未定)

動物福祉委員会 (未定)

SSC 委員会 (未定)

午後 2 時から午後 4 時まで：学生部会会議 (第 1 講義棟 23 号教室)

午後 3 時から午後 4 時まで：理事会 (第 1 講義棟 25 号教室)

午後 4 時から午後 5 時まで：評議員会 (第 1 講義棟 24 号教室)

9月30日（金）

午前9時から12時まで：口頭発表（第1講義棟24号教室）

9 演題

午前9時から：ポスター発表（第1講義棟12, 17, 18号教室）

10月1日（土）午後1時まで。奇数番号は9月30日12時から午後1時までがコアタイム。偶数番号は10月1日12時から午後1時がコアタイム。

午前9時から12時まで：企画委員会主催・感染症対策委員会共催シンポジウム
（第1講義棟25号教室）

「野生動物の感染症管理にどのように取り組むべきか？」

趣旨 野外の野生動物において重篤な感染症が確認された場合、野生動物は法規制の対象外であることが多く、個体や群を人為的に管理することが困難であることから、国内では体系的な対策法が確立されていない。そのような中、昨年度日本各地で野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが確認され、大きな問題となった。

日本野生動物医学会は、その対応の一環として、昨年12月に鹿児島県で野生のツルから高病原性鳥インフルエンザウイルスが確認された際に、現地対応を正確かつスムーズに進めるために専門家の派遣を行い、環境省の主導する現場作業に貢献した。多くの学会員の協力の下、現場での検査業務において一定の成果をおさめ、学会としての情報収集や体制構築の検討も進んだ一方で、様々な課題や問題点も明らかとなった。

今回のシンポジウムでは、昨年度実施された高病原性鳥インフルエンザに対する一連の取り組みにおいて、専門家として、また学会としてどのような活動を行ったかを振り返るとともに、今後どのように対応していくことが求められるのかを考察し、適切な活動方針を探る。

内容

1. 趣旨説明

大阪市天王寺動植物公園事務所 高見一利

2. 北海道でのハクチョウその他の事例に関する経過と問題点の報告

猛禽類医学研究所 渡邊有希子

3. 鹿児島県でのツルの事例に関する経過と本学会としての対応
北海道大学大学院獣医学研究科 坪田敏男
4. 鹿児島県でのツルの事例に関する現地での対応と問題点の報告
旭川市旭山動物園 福井大祐
5. (独) 国立環境研究所における鳥インフルエンザウイルスの監視体制と関連研究について
独立行政法人 国立環境研究所 大沼学
6. 環境省における対応報告と今後の方針説明
環境省自然環境局野生生物課 山本麻衣
7. 野生動物医学会に寄せられる期待と学会の方向性 - 学会からの提案
日本大学生物資源科学部 村田浩一
8. ディスカッション
9. 結論

午後 1 時から 1 時 30 分まで：総会（第 1 講義棟 25 号教室）

午後 1 時 30 分から 2 時 30 分まで：基調講演（第 1 講義棟 25 号教室）

演者：Dr. Joshua Dein (National Wildlife Health Center, USA)

講演タイトル：「国際的ネットワークを視野に入れた野生動物の疾病管理」

コーディネーター：村田学会長

午後 2 時 30 分から 5 時 30 分まで：国際交流委員会主催シンポジウム

「極東地域のリスクマネジメント I-越境するリスクに対する国際交流網の構築を目指して（仮題）」

野生動物に対する越境リスクには、渡り鳥等を介して運ばれる重要感染症や、石油流出に代表される大規模な環境汚染などが存在する。日本周辺各国におけるこれら予想されるリスクを早急かつ正確に把握するとともに、関係諸国間の情報共有網とリスクマネジメント体制の強化を図る事が急務である。

I 目的

野生動物の大量死や重篤な健康被害をもたらす可能性のある、越境するリスクの把握（各国からの事例報告）と、これに対応するための国際交流網（情報交換&活動協力）の構築。

II 主な議題

①石油汚染

- サハリン開発に関連するタンカーやパイプラインからの石油流失に基づく、オホーツク海や日本海の大規模な海洋汚染と環境破壊
- アムール川を介した中国、ロシアからのケミカル汚染
- 韓国沿岸等から流出する各種汚染物質（石油など）に対する、九州（対馬ほか）、中国地方を中心とする海洋汚染

②重要感染症

- 西ナイル熱
- 高病原性鳥インフルエンザ（および H9 など他の鳥インフルエンザ）
- 口蹄疫

III パネラー候補者

[海外] 2名

韓国:キム・ヨンジュン獣医師 (Chungnam Wild Animal Rescue Center, Kongju National University) - 韓国における HPAI、口蹄疫、油流出事故の現状と対応

サハリン:イーゴリ・アンティペンコ獣医師 (元サハリン動物園獣医師長、サハリン・クリル地区獣医局副局長) - サハリンにおける石油流出事故の対応及び HPAI への対応 (予防接種等)

[日本] 2~3名

重要感染症 (特に西ナイル熱):

油流出事故: 日本海: 対馬野生生物保護センター関係者

オホーツク海: 油事故状況

午後 6 時 30 分から 9 時まで: 全体懇親会 (府中市民会館ルミエール府中)

10月1日(土)

午前9時から12時まで：口頭発表(第1講義棟24号教室)

9 演題

午前9時から：ポスター発表(第1講義棟12, 17, 18号教室)

10月1日(土)午後1時まで。奇数番号は9月30日12時から午後1時までがコアタイム。偶数番号は10月1日12時から午後1時がコアタイム。

午前9時から12時まで：学術委員会主催自由集会(第1講義棟16号教室)

「研究する動物園4」

コーディネーター：

佐々木基樹(帯広畜産大学・学術委員会委員長)

遠藤秀紀(東京大学総合研究博物館・学術委員会委員、学会誌編集委員長)

タイの動物園における研究の現状と将来(仮題)：Boripat Siriaroonrat
Assistant Director, Conservation, Research & Education Division,
Zoological Park Organization under Royal Patronage of H.M. the King,
Thailand

他

午前10時から12時まで：ウエットラボ(4号館4階実習室)

ウエットラボ

明日から使える臨床技術～実践編；鳥類骨折治療のちょっとしたコツ

主催：日本野生動物医学会教育保護委員会、野生動物臨床フォーラム

コーディネーター：石橋徹、渡辺有希子、佐藤梓

講師：中津賞、渡辺有希子

趣旨・内容：鳥の骨折の治療におけるちょっとしたコツを鶏とウズラの死体をつかって簡単に講習します。

参加申込：参加費3000円(DVD、テキスト代含む)、実習に使う器具は参加者持参、先着30名程度の事前登録です。

申し込みおよびお問い合わせは

到津の森公園 外平友佳理

sotohira@nifty.com

午後 1 時から 5 時まで：大会実行委員会企画シンポジウム

「ゾウの繁殖国際シンポジウム」

13:00h-13:05h Opening remark Kazuyoshi Taya (Japan)

13:05h-13:50h Dr. Janine L. Brown (U.S.A.)

13:50h-14:35h Dr. Chatchote Thitaram (Thailand)

14:35h-14:55h Coffee break

14:55h-15:40h Dr. Thomas B. Hildebrant (Germany)

15:40h-16:25h Dr. Oswin Perera (Sri Lanka)

16:25h-17:00h General discussion

午後 6 時 30 分から 9 時まで：学生懇親会（府中市グリーンプラザ）

優秀ポスター賞発表

10月2日（日）

午前9時から12時まで：口頭発表（第1講義棟24号教室）

10演題

午前9時から12時まで：自由集会（第1講義棟25号教室）

タイトル：「動物園の貴重種鳥類を高病原性鳥インフルエンザから守るには」

座長：吉川泰弘（北里大学獣医学部）

内容：日本や韓国では2011年冬季は、それまでのH5N1高病原性鳥インフルエンザの発生とは大きく様相を異にした。わが国では2004年の高病原性鳥インフルエンザの発生後、野鳥での陽性例は年間1～3例で経過し、家禽での発生も1～4件以下であった。しかし、2010年秋の陽性例から春にかけて、野鳥で71例、家禽は24件という異常な頻度になった。野鳥では北からの渡り鳥からはじまり、徐々に定住している猛きん類等に感染が広がっている傾向がみられる。

2012年以後、同様の傾向が起こる可能性があり、動物園で維持されている貴重種が巻き込まれる可能性が否定できない。動物園の鳥類は家禽の定義には該当しない。現在備蓄用にワクチンが保持されており、また新規のワクチンも開発されている。動物園の鳥類を守るために、不活化ワクチンを接種することの可否を議論し、対策をきめるべき時に来ていると考え、今回の自由集会を発案した。

演者には、鳥インフルエンザウイルスの専門家、野鳥での調査、動物園関係者及び行政の関係者を選んだ。立場の違う専門家の意見を聞き、有効な手段が実行できるか否かを議論し、早急に対応を考えていきたい。

プログラム：

1. 高病原性鳥インフルエンザの猖獗とワクチン

喜田宏（北海道大学大学院獣医学研究科）

2. わが国における高病原性鳥インフルエンザ発生の特徴

小泉伸夫（農研機構 動物衛生研究所）

3. 希少動物の飼育状況に基づくワクチン利用の検討

高見一利（大阪市天王寺動植物公園事務所）

4. 動物園等における飼育鳥に関する鳥インフルエンザへの対応指針について

山本麻衣（環境省鳥獣保護業務室）

5. 総合討論

司会：吉川泰弘（北里大学獣医学部）

午前9時から12時まで：学生集会（第1講義棟16号教室）

「保全医学の未来に対する行政機関の獣医師の役割と可能性について」

主催：日本野生動物医学会学生部会

共催：日本野生動物医学会教育保護委員会

日時：10月2日（日） 09:00～（予定）

場所：東京農工大学 農学部 2号館11教室

コーディネーター：鈴木 瑞穂（酪農大・獣医4年）

澤 由貴（農工大・獣医4年）

越智 葵（日獣大・獣医3年）

趣旨： キーワード： **野生動物 公務員 獣医師 保全医学**

あなたはどのように野生動物に関わっていけばいいのか、迷っていませんか？あなたの将来の選択肢に、公務員はありますか？公務員ってどんな仕事をしているのだろう、公務員として野生動物に関わる方法ってあるの、そんな疑問をもっていませんか。

今年の学生集会では、公務員として働きながら野生動物の保全医学に携わる獣医師の方がたをお招きして講演して頂きます。あなたの中にある公務員獣医師への疑問を解消しませんか？また公務員の果たせる可能性について、学生の立場から考え、提案をしていきましょう。

獣医学科以外の学生、他分野の職に就いておられる方からも、様々な立場から提案や質問などを頂きたいと思いますので、ぜひご参加下さい。

内容：

公務員としての獣医師は、各都道府県・中核市等に配属され、様々な情報のネットワークと、行政としての保全のためのシステムなどを有し、その活躍分野は多岐にわたっています。渡り鳥を由来とする鳥インフルエンザの問題や野生動物個体群管理の問題なども近年増す中、保全医学において、公務員獣医師は今後より一層幅広いニーズと活躍の場が考えられます。獣医師の公務員不足

が深刻な自治体にとって、保全医学に興味を持った獣医師が行政に入ることで、将来的には保全医学に直接携わるようなポストの設置が出来てくるなどのさらなる進歩を期待し、この度の集会から若い学生に発信していきます。

1) 趣旨説明

2) 基調講演. 安田 直人 氏 (環境省 長野自然環境事務所長)

講演. 宮城 国太郎 氏 (沖縄県 環境生活部生活衛生課)

午前 12 時から 12 時 30 分まで : 学生総会 (第 1 講義棟 16 号教室)

午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分 : 市民公開講座 (多摩動物公園ウォッチングセンター)。

場所 東京都多摩動物公園ウォッチングホール

定員 150 名 いずれも事前応募による (都募集分の 100 名は、多摩動物公園で募集し抽選の上参加者を決定、大会参加者で市民公開講座の受講を希望する者は、大会事務局で事前登録)

内容「野生動物にかかわる獣医師の仕事紹介」: 演者 4 名

① 動物園ではたらく獣医師 多摩動物公園動物病院係長 豊嶋省二

② 水族館ではたらく獣医師 鴨川シーワールド動物病院 勝俣悦子

③ 希少野生動物繁殖施設ではたらく獣医師 長岡市トキ分散飼育センター 和食雄一

④ 傷病鳥獣救護施設ではたらく獣医師 神奈川県自然環境保全センター 加藤千晴

5 受講申込 : 事前申込制

「市民公開講座参加希望」と明記し、御名前、御住所、御所属、メールアドレス、電話番号を、メール (jszwm17@ml.tuat.ac.jp) あるいは FAX (042-367-5768) にて大会事務局までお送り下さい。

締切り 平成 23 年 9 月 10 日 (土曜日)